

2024年2月期 1Q 決算説明会

【質疑応答要旨】

日時 : 2023年7月7日(金) 10:00-10:40
説明者 : 常務取締役 財務・経理・IR 担当 佐藤 修

Q1. 今年の春夏物の国内販売について、価格戦略とその結果をどのように分析しているのか。また、秋冬物の価格戦略について教えてほしい。

A1. 原材料費の高騰への対応としましては、単純に商品の価格を値上げするのではなく、付加価値をつけたうえで商品価格に転嫁させていただいています。ブランドによって値上げ率に差はありますが、これまでのところお客さまには受け入れていただいております。この価格戦略が功を奏していると考えています。
秋冬物につきましても、同様の方針で対応する計画です。

Q2. 最近の円安基調により、秋冬物は予想以上に値上げをしなければならないというリスクはないか。

A2. 円安や原材料の値上がりについては、リスク要因として考えていますが、原材料の調達にかかる期間は比較的に長いため、足元の円安傾向がすぐにこの秋冬物の価格に影響を及ぼすという状況ではありません。中長期的な課題として対策を取っております。

Q3. 今回の業績予想の上方修正で、海外事業の営業損益予想が期初計画比で1億円改善されたが、その背景について教えてほしい。

A3. ヨーロッパでは JOSEPH 事業で取り組んできた構造改革が実を結んできているところで、今年度は収支均衡まで改善するものと計画しています。

アジアにつきましては、販売は想定を上回って順調に推移しており、黒字化を見込んでおります。製造面については、大連工場の稼働率は上昇しつつありますが、さらに引き上げたいと考えています。

アメリカは主に J.PRESS 事業になりますが、E コマースを中心に売上拡大とともに、店舗賃料等の固定費の削減に取り組んでいるところです。

以上の通り、海外事業は地域によって課題が異なりますが、各地域において収益改善に向け

て鋭意努力しているところです。

Q4. 今年度上期の業績予想を上方修正したが、これは1Qの期初計画比の上振れ分のみを加算したものなのか。それとも2Q最初の6月の好調な状況も織り込んだものなのか。

A4. 上期業績予想上方修正分のかなりの部分は、1Qの上振れ分を反映したものです。

Q5. 上方修正をしてもなお、2Qの営業損益は赤字となる予想だが、これには季節要因やその他の要因があるのか。

A5. 2Qはセール期間と重なるという要因と、夏物衣料は秋冬物に比べて単価が低いという要因があります。当社では2Qにおいても黒字化を達成すべく努力を行っていますが、今年度はまだ赤字の見込みです。

Q6. 衣料品専門店では、ファッショントレンドの変化により買い替え需要が喚起されているようだが、オンワードの百貨店アパレル売上が好調な背景にも当てはまるか。

A6. 当社グループでは、ほぼ全てのブランドで売上は好調ですが、特に高価格帯のメンズスーツや23区などの、主力ブランドの定番的な商品がお客様の支持を得ています。

以上